

## 『安全保障戦略研究』の創刊に寄せて

防衛大臣 河野 太郎

この度、『安全保障戦略研究』が創刊されることは、誠に嬉しい限りです。

現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、かつて想定していたよりも遙かに速いスピードで変化しており、既存の秩序をめぐる不確実性は増大しつつあります。また、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域の利用の急速な拡大は、従来の国家の安全保障の在り方を根本から変えようとしております。

このような不確実・不透明な時代だからこそ、「知」の力が問われていると思われまます。一昨年の12月に策定された「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱について」及び「中期防衛力整備計画（平成31年度～平成35年度）について」では、防衛力を支える要素の一つとして「知的基盤」に言及しています。そこでは、安全保障・危機管理に対する国民の理解を促進するため、効率的かつ信頼性の高い情報発信に努めることと、防衛研究所に関しては、国内外の大学、シンクタンク等との教育・研究に係る連携による研究体制の一層の強化が謳われています。

このような方針を具現化する大きな柱の一つとして、『安全保障戦略研究』が創刊されることは意義深く、心から期待を寄せるところです。

米国では、安全保障に関して、国家機関とアカデミズムの間に壁がなく、自由に交流がなされており、実務者と学究とがチームとなって政策提言を行う事例もみられます。

一方日本の場合、戦後、戦争の影響もあり、大学などで長い間安全保障研究がタブー視されてきました。しかしながら、冷戦終結後、例えば、「安全保障」と銘打った学術誌が刊行されるなど、このような状況は徐々にではありますが変わりつつあります。さらなる、国家機関とアカデミズムの関係の深化が期待されるところです。

このような意味におきまして、防衛省のシンクタンクである防衛研究所から、一般の研究者にも広く開かれた学術誌として、『安全保障戦略研究』が刊行されることは、画期的なことであると確信します。

この度の『安全保障戦略研究』は安全保障問題を広い観点から分析した研究を掲載しております。この刊行が、今後、防衛研究所の調査研究の充実にとどまらず、学界等における安全保障研究にも寄与できるよう、各位のご支援を切にお願いする次第です。

